

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	地域密着型サービス事業所として独自の理念を作り上げている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	申し送りや職員会議等で、理念を確認し、実践に向け日々支援に取り組んでいる。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	事業所内に掲示し、ケアプラン作成時や面会時の会話のなかで家族に伝えている。地域との交流の場を設けたり、自治会の回覧を通じて、理念の理解や浸透に努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	散歩の時には必ず挨拶をし、利用者も交えて会話をしている。近所の方には畑で栽培された花や、旬の食材をいただくこともある。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	自治会に加入し、地元の人々との交流に努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現時点では、地域の高齢者の貢献までには至っていない。	○	茶話会や催事にお誘いし、認知症を理解していただき、ふれあいの場所となるようにしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は理解している。評価を活かし徐々に改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、参加者の方々の意見を傾聴し、サービス向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村と連携し、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、地域福祉権利事業を活用されている利用者がいて支援している。制度の理解は十分にはできていない。	○	制度を学ぶ機会を持ち、必要に応じ活用していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する資料を提供し、あってはならない行為である事を職員に伝えており、十分に理解できている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、契約書や重要事項説明書を熟読して頂き、十分な説明をしている。疑問点があればお答えし、理解・納得していただけるようにしている。解約時も、利用者や家族の立場になって支援している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、利用者が素直に気持ちを表現できるよう支援している。認定調査員や介護相談員の訪問の際、問題提起があれば、迅速に対応し運営に反映させている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に、心身の状態や生活の様子を伝えている。毎月「だんらん通信」を発行、個別に出納帳の報告をしている。また、必要に応じ個々への連絡や、定期的に職員紹介を記載している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、家族が気軽に相談できる、雰囲気作りを心がけている。ポスターを貼ったり、意見箱を設置し機会を提供している。意見等は謙虚に受けとめ、それらを運営に反映させている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に話をする時間を設けたり、申し送りや職員会議で、意見や提案を聞き、反映できるよう努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	柔軟な対応ができるよう調整に努めている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職が減るよう努力をし、交替時のダメージを防ぐ配慮をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月職員会を開き、職員の意識向上に努めている。研修には積極的に参加させている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との勉強会には積極的に参加させている。催事に、他施設の職員や利用者を招き、情報交換や交流の機会を持っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	十分な休息、気分転換ができる勤務体制を確保するようにしている。休憩室を設け、休憩時間にはゆっくりと休める環境を提供している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	申し送りや職員会議、タイムカードへの感想記入等、職員に接する機会を持ち、気持ちよく働けるように、職員の話聞くようにしている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	常に無理をせず、自然体でいて欲しいと伝えている。不安や要望をゆったりと聴き、職員間で共有し、信頼関係が築けるよう努力をしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の立場にたち、現状や利用者に対する思いをしっかりと聴き、不安が解消できるように努力をしている。また、不安や心配事につながらないよう前向きな会話を心がけている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、本人の心身の状態を十分聞き取り、本人・家族・家族等の思いをしっかりと受け止め、必要な支援を見出せるよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に本人の性格や生活習慣を聞き取り、どのようなリズムで生活されていたのか様子観察をしている。集いの場に、自然に足が向くような雰囲気づくりをし、仲間作りに努めている。本人と家族等に意見・要望を聞きながら、可能な限り意向に沿えるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	会話や様子観察をし、できる力を失わず、さらに引き出せるように支援している。歴史や伝統行事、植物の名前の由来、調理方法等を教えていただき、支え合う関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	年4回の家族会催事においては、家族と共に企画や準備をし、達成感や喜びを共有できるようにしている。面会時はコミュニケーションを欠かさず、互いに情報交換をし、共に支えていく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人・家族のそれぞれの思いを傾聴し、家族関係を理解するように努めている。良い距離感を保ちながら、より深い関係が築けるように支えている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望に応じ連絡を取ったり、遊びに来ていただけるような声かけや雰囲気作りをしている。行きつけだった馴染みの美容室に行ったり、魚屋に買い物に行き、会話を楽しめるよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	それぞれの性格や、互いの関係を見極めて仲間作りに力を入れている。孤立しがちな方もタイミングを計り、力を発揮できる場面を作り、認め合い楽しむ事ができるような支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	在宅に戻られた利用者の様子を、電話で伺ったり、介護方法をアドバイスして、関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お茶を飲みながらゆったりと話を聞き、本音が言えるような雰囲気作りに努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・知人・関係者から聞き取りをし、それらの把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個別生活記録、日誌、介護サービス実施評価票等を記録し、職員全員が現状を把握できるようにしている。またいろいろな場面を設定し、有する力の発見に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、知人、職員、医療関係者等との会話の中で、意見やアイデアを聴いている。介護サービス実施評価をし、「生きた介護計画」となるように作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度見直しを実施。心身の状況に応じ変更をし、現状に即したものとしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、日誌、介護サービス実施評価票、5分間トーク帳を記入し、情報の共有や意見交換を行い、日々のケアやプランの見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況の変化に応じ、柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	コーラス、腹話術、口腔ケア教室等のボランティアや地域の子供会の訪問を受けている。また地域の方、消防署員の方と防災訓練を行い、災害時の救援活動をお願いし、協働で支援をしている。	○	地域資源の活用をさらに拡大していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のケアマネジャーと少しずつつながりができている。情報交換を行い、どんなサービスが利用できるか模索中である。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センター主催による北ブロック情報交換会に参加し、より良い支援ができるよう協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を重視し、連携を取り支援をしている。時に本人や家族と共に同行し、医師と信頼関係が築けるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医の数が少なく、明確な情報収集ができていない。	○	情報収集を行い、専門医とのつながりを持ちたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療機関の看護師と連携し、日常の健康管理や異常時の早期対応に努め、支援をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した時は、早期退院に向けて、家族や医療機関との情報交換や話し合いを行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族の意向を聞き、当施設の現在の方針を伝えている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	全利用者のかかりつけ医と、事務所の方針を確認するに至っていない。	○	かかりつけ医と確認をし、チームとしての支援に取り組んでいきたい。また状況に応じ、柔軟な対応をしていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、ダメージを防ぐことに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーの確保を重視し支援している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に歩み寄り、焦らずゆったりと、その思いに耳を傾けるようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のやり方に合わせ、足りないところを介助している。一人ひとりのペースを何より大切に支援している。	
ほん			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	女性利用者(希望者)は、2ヶ月に一度訪問カットを利用している。行きつけの美容院を利用している方もいる。男性利用者は近所の理容室に行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ゆったりとした気分で食事ができるよう、季節のものを使用し、彩りの良い献立にしている。準備や片付けも、できる範囲でしていただいている。利用者に調理法を教わり、会話が弾むよう心がけている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	男性利用者は毎日、焼酎の晩酌をしている。時にはつまみとして、一緒に刺身を買いに行っている。一人ひとりの好みを尋ね、栄養面だけでなく、楽しみとして提供している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	紙おむつの使用を極力減らし、尿意、便意が維持できるよう支援している。失敗時や介助を要する場合は、さりげない声かけをし、気兼ねなく気持ちよく排泄できるようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの状態や入浴形態に合わせ、入浴をしていただいている。入浴剤を使ったり、ゆず湯にして楽しめるようにしている。	○	お風呂でリラックスできるよう、音楽を取り入れていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その人のリズムで起き、朝食を摂っていただいている。日中は自室や居間ソファー等好きな場所で休息し、夜間は室温や照明の調節、水分補給等に配慮し、安眠を確保できるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力を見極め、役割や出番を發揮できる場面作りをしている。日課として定着している利用者もいて、記憶・機能維持につながる支援となっている。	○	できることをもっともっと掘り起こし、張り合いや喜びにつなげていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や状況に応じ、その都度買い物に出かけている。お金は希望や力に応じ所持していただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の知人宅や買い物など、希望に沿って外出をしている。引きこもりがち利用者に対しては、気分転換を図り、他の利用者と一緒に周辺の散歩をしている。	○	季節を感じるができるように、食材の買い物と一緒に出かけるようにしたい。また職員との外食支援をしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	平和台や港にドライブに出かけたり、家族会の催事でフローラへの外出や花見を企画し、みんなで楽しめる機会をつくっている。お墓参りは家族とともに出かけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話はないが、要望に応じ気軽に電話できるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時には笑顔で迎え、話しやすい雰囲気作りに努めている。利用者と家族が、落ち着いて話せる場所を速やかに提供し、くつろいでいただけるようにしている。時には催事に参加していただき、一緒に楽しめるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないよう、職員で知恵を出し合い工夫をしている。現在その対象者となる利用者はいない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居時や状態の変化により、安全の為に一時的に、玄関に鍵をかけざるをえないときがあるが、すぐに解除できるように支援している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間で連携を取り、所在や様子を把握し、安全確認ができる体制をとっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態を把握し、危険防止に取り組んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状況変化に応じ、事故防止に取り組んでいる。事故発生時は、原因や状況を検証し、今後の対応を職員全員で確認している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応のマニュアルを作成し、所定の場所に掲示している。応急手当や初期対応の勉強会を実施している。	○	職員全員が不安なく適切に対応できるように、勉強会を増やしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1月に消防署、地域の方々と共に防災訓練を実施。自治会長の協力で、大島町住民に「訓練報告と災害時の救援活動のお願い」を回覧していただいている。	○	避難や救援活動が迅速にできるよう、地域との連絡体制を整えていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時や介護サービス計画変更時に家族に説明をし、職員間で対応について話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックや、顔色、様子、本人の訴え等で早期発見に努めている。日誌、個人生活記録に記入し、常時口頭でも情報交換をし、対応に結び付けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストを2週間に1度作成している。変更があればその都度修正し、職員全員が確認できるようにしている。症状の緩和を考え、医師の指導の下、適切な服薬支援に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便通に良い食材を使用したり、ジュースを作り飲んでいただいている。体操や歩行訓練に加え、室内移動の機会を提供し、身体を動かすよう働きかけをしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自立者には声かけをし、要介助者は誘導後その人に応じた支援をしている。口腔内に異常が生じた場合は、受診や訪問歯科による早期対応に努めている。講師を招き、口腔ケア教室を開いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を記録し、職員が常時把握できるようにしている。本人の要望や状態に応じ、摂取量の調整をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種を実施。うがい手洗いを励行し、日頃から予防に努めている。周辺での発生状況について、情報収集をし常に把握できるよう留意している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	殺菌やハイター消毒をしている。賞味期限や鮮度に十分注意して使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設は周囲の景観にとってもよく溶け込んでいる。門扉から玄関までなだらかな勾配と道のりで、木々や草花を植え、会話を楽しみながら出入りできるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、食卓、洗面所には季節の花を欠かさないようにし、明るく華やかな雰囲気づくりをしている。食堂と居間は続き間で開放感があり、誰彼となく自然に集まってこられ、ここで過ごされることが多い。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間は本人の好きな場所に座り、思い思いに過ごせるようにしている。食卓は調和がとれるよう、心身の状況や個性を考慮し座っていただいている。	○	孤立したりトラブルがないような居場所作りを常に考えていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前には本人・、家族に居室を見ていただき、使い慣れた家具や愛着のある生活用品を持ってきていただくようお願いしている。安全で落ち着ける空間を確保できるよう一緒に考えている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	清掃時、居室不在時に換気をしており、必要に応じ消臭剤を使用している。日中、夜間を問わず、利用者に応じ温度調節をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内に段差はなく、手摺りを使用し安全に移動することができる。広々とした廊下は、車椅子同士で行き交う事もできる。安心して自由に移動できることで、身体機能の維持、向上につながっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	浴室、トイレ、洗面所等の共同の場所には標示をしている。居室入り口に、表札や目印の装飾品を掲示し、分かりやすいように工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の四方は見晴らしもよく、四季を通じて木々や花々を楽しむ事ができる。食堂と居間の南側にベランダがあり、日向ぼっこや布団干しができるようになっている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

1. いつまでも自分で箸を使い、食を楽しむことができるように支援していきたい。
 2. 本当に必要な適切な服薬で、副作用の減少や症状の緩和につなげたい。
 3. 笑いの場をたくさん提供し、心も身体も元気になるようにしていきたい。
 4. あるがままの姿で、素直に自分を表現し、なおかつお互いを認め合うことができる関係作りに力を入れている。
- *施設内はとても明るく広々としており、自由にゆったりと行き来できることで、日常生活を通し身体機能の維持、向上につながっている。